

食支援つうしん

—新宿食支援研究会通信—

第44号 2018.8.1発行

私は、新宿食支援研究会（以下、新食研）の発足当初からこの会に関わってきました。発足当初は、食支援という言葉にピンときておらず、とにかく、五島代表のもとで新宿に何かが起きると期待しながら関わってきたのを覚えております。

それから、新食研の向かう方向が分かってきたのは数年後のことでした。それは、五島代表が良く話す、この活動自体が「街づくり」であるということです。

この考え方に納得がきました。ある新食研メンバーが、新食研は「食支援」をテーマとして、多職種が関わりあっていく、成功事例であると話していて、私も同感でした。

通常、多職種連携という意味は、個々の利用者や患者を中心とした考え方で、当該者をチームでケアするという意味合いが強く、当該者の対応が終了となった時に、多職種連携も終了となり、断続的です。

しかし、新食研が考える多職種連携は、「食支援」が中心的なテーマとなり、多角的な面から食支援について多職種で考えあうというもので、多職種連携は常に続きます。この継続が街づくりにつながっていきます。

新食研の特徴は、勉強会の開催だけではなく、ワーキンググループの活動があります。実は、このワーキンググループの活動がコアとなっており、日々、新しい成果を生み出しているのです。

(新食研事務局 堀尾 隆)

URUZO メンバーが贈る介護食品

① マルハニチロ株式会社

団塊世代が後期高齢者に突入する 2025年には、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という他に類を見ない超高齢社会になり、従来の介護政策を根本的に見直す局面

を迎えています。そこで厚生労働省は、要介護状態となっても、住み慣れた地域で医療や介護などの生活支援が一体的に提供されるよう「地域包括ケアシステム」の構築を進め、施設から在宅へ介護ケアの場の移行を図っています。在宅療養高齢者の約7割が低栄養の恐れがあると言われており、フレイル予防の観点からも在宅における栄養ケアはとても重要であると考えます。

弊社の「もっとエネルギー」シリーズは、消化・吸収のよいMCT（中鎖脂肪酸油）を配合し、少量でもしっかりとエネルギー摂取ができるやわらか食となっております。常温で24ヶ月保存できますので、いざという時の備蓄食としても最適です。これからも、おいしく栄養強化できるお食事をご家庭で楽しんで頂けるようサポートして参りたいと思います。



(介護食品メーカー 木田 恭太)

新食研の商品開発部隊！「コンセプト」

日本リック株式会社 新城 早師

ある食事姿勢を見て、「その方に対して何かできないだろうか？」と、いう会話から、既製品に理想の商品がないなら、自分たちで用具を作ってしまうえば良いのでは？…そんな単純ともいえる発想から、新食研ワーキンググループ（以下、WG）「コンセプト」が生まれました。

WG「コンセプト」は、食事をする時に困っている方へ対して用具を開発するプロジェクトチームです。

まず、WGでは、姿勢が崩れているひとへのアプローチという事で、そのひとの頭を支える用具があればきっと改善できるのでは？という視点のもと、ヘッドサポートを検討することになりました。福祉用具での既製品では、可動させる領域が狭く、あまり動かさないのですが、関節が多く、あらゆる角度に対応できるものを検討した結果、コストがかかりすぎてしまうことがわかり断念することになりました。

その後、議論は右往左往し、「座る」と、いう行為に着目し、ヘッドサポートから椅子の視点へと転換していきました。

人は無意識のうちに、食事する時に能動的な姿勢を執っています。普段はリラックスして安楽な姿勢を執っていますが、いざ食べる時になると攻めの姿勢になるのです。

「食事姿勢」から「食事動作」へ



しかし、高齢者ともなれば背骨が曲がっ

たり、筋力も弱ってきます。そのような状況の中、多くの方が自分の食べやすい姿勢や動作で食べていることに気づき、食事する行為は、単に姿勢だけでなく動作にも見るべきポイントがあると、検討する視点が移っていきました。

その後、試行錯誤を続けているうちに、普段、関わりのある高齢者の方から大きなヒントを頂くこととなります。それは、クッションを自分の体に巻き付け、一緒に移動することができ、移動した先でもそのまま使用できる、という発想でした。このヒントから、現在、開発中の「食べるト」という商品が「形になる」動機になりました。

食べるト®の特徴

- ①食事姿勢が良くなる
- ②安定感がある
- ③専門職いらず！



「食べるト」を試着した方からアンケートを頂きましたが、ポジティブな意見からネガティブな意見まで、率直な意見を頂きました。一番多くあった意見は、「何より安心する」「姿勢が良くなった感じがする」「食べていても気にならない」等でした。うれしい声を参考に、「食べるト」の3つの要素が明確に出てきました。それは、①姿勢が良くなる、②安定感がある（安心感がある）、③専門職いらず、という点です。

WGを始めて4年の月日が経ち、今後、WG「コンセプト」から生まれた「食べるト」が、誰かの支えになったり、また、使用した方が楽しく食事ができるようになることを期待しています。

